

1 調査名称：令和3年度 播磨臨海地域道路に係る都市計画道路網検討業務委託

2 調査主体：兵庫県

3 調査圏域：兵庫県管内

4 調査期間：令和3年度～令和4年度

5 調査概要：

兵庫県では平成23年度より都市計画道路網の見直しを進めており、平成29年度で都市計画変更を終えた。しかし、播磨臨海地域道路に関連する都市計画道路については、播磨臨海地域道路の計画が未確定であったため、見直しの対象外としていた。

播磨臨海地域道路の計画が具体化してきたことから、播磨臨海地域道路を都市計画道路網に位置づけることとし、都市計画道路網の都市計画決定を行うための基礎資料作成を実施した。

## I 調査概要

1 調査名称：令和3年度 播磨臨海地域道路に係る都市計画道路網検討業務委託

### 2 報告書目次

第1章 業務の概要

第2章 現況交通量配分の実施

第3章 将来交通量配分の実施

第4章 都市計画道路網の検討

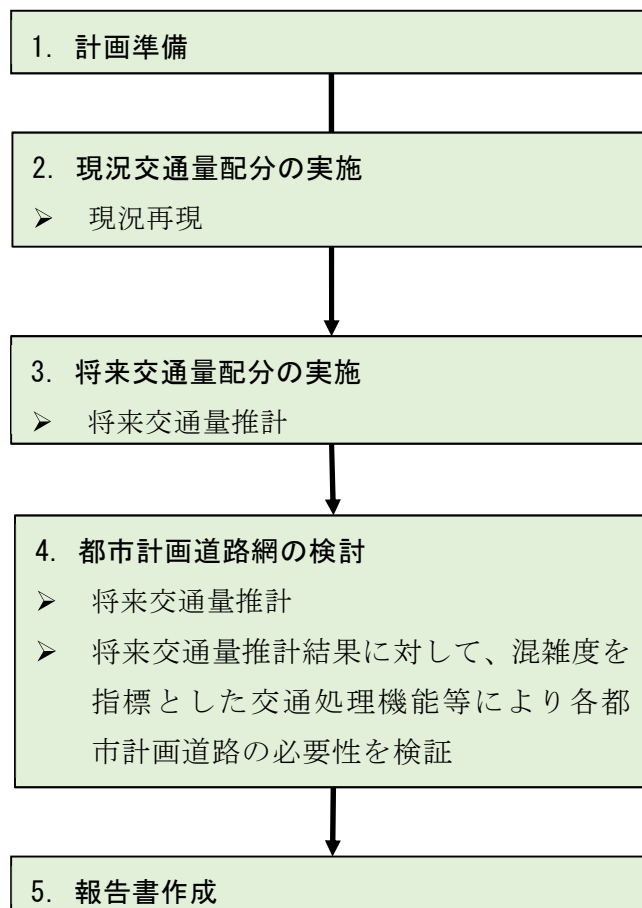
## II 調査成果

### 1 調査目的

本業務の目的は、播磨臨海地域道路の円滑な移動の確保や、都市環境、都市防災等、良好な空間形成等を図るため、播磨臨海地域道路を同地域の都市計画道路網に位置付けることとし、本業務において、都市計画道路網の都市計画決定を行うための基礎資料作成を実施するものである。

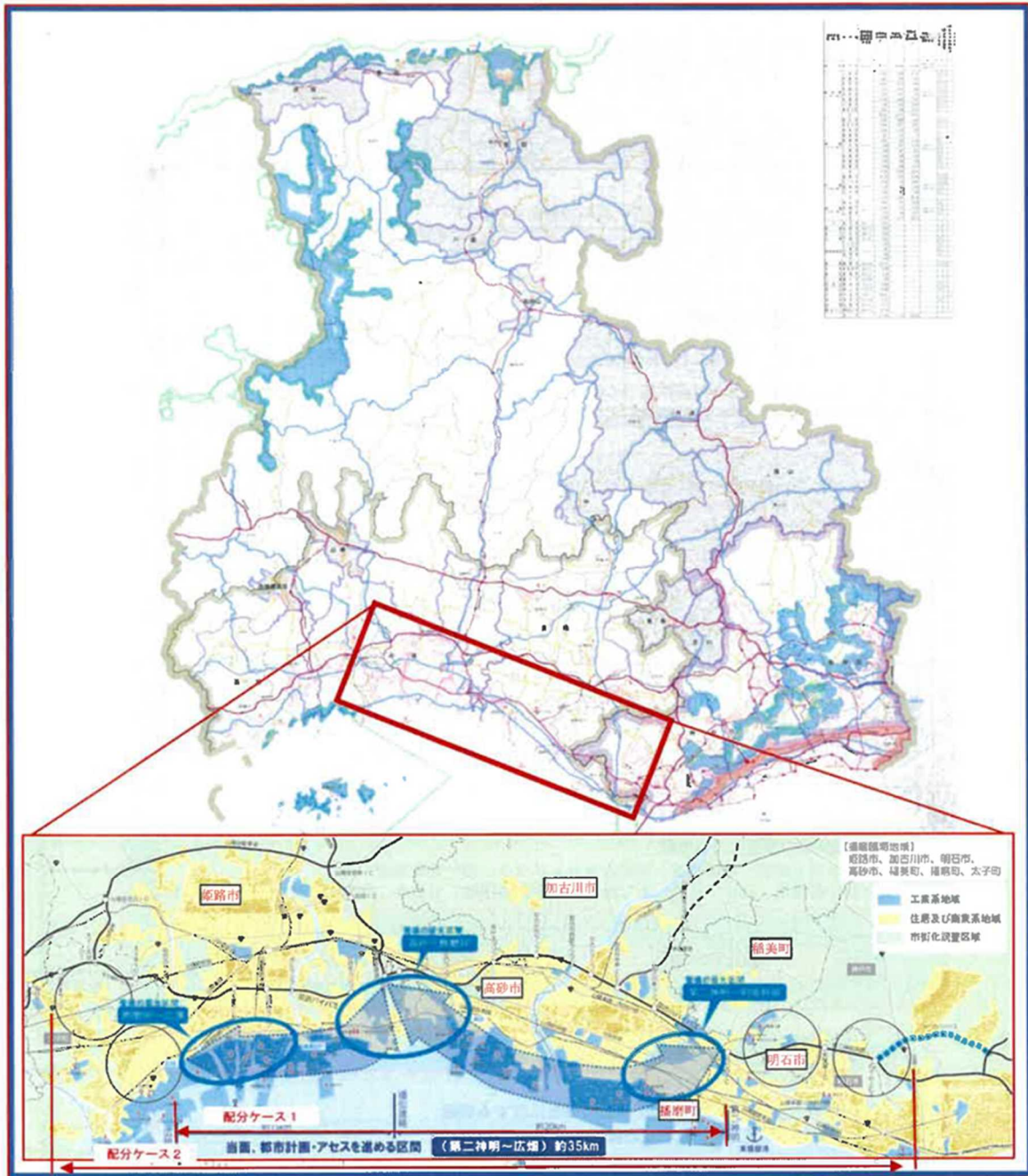
### 2 調査フロー

#### < 業務の全体構成フロー >



### 3 調査圏域図

#### <対象地域図>



## 4 調査成果

### 4-1 現況交通量配分の実施

- 1 現況交通量配分の実施フロー
- 2 現況交通量配分の前提条件
- 3 現況交通量の配分手法
- 4 現況交通量の配分結果
- 5 現況交通量配分結果と観測交通量との相関

### 4-2 将来交通量配分の実施

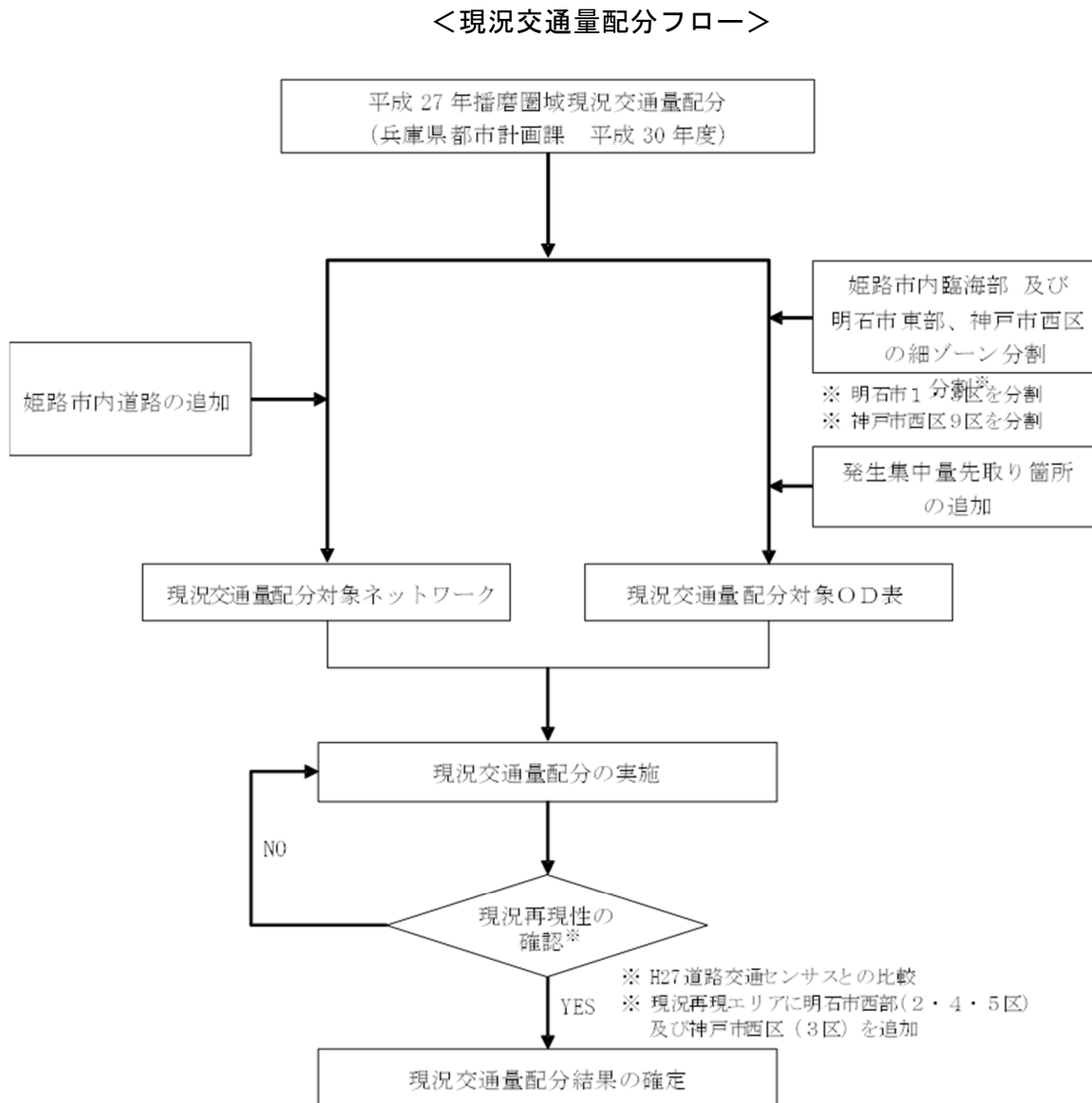
- 1 将来交通量配分の実施フロー
- 2 将来交通量配分の前提条件
- 3 将来交通量配分手法
- 4 将来交通量配分ケース
- 5 将来交通量配分結果

### 4-3 都市計画道路網の検討

- 1 都市計画道路網見直し検討の概要
- 2 路線階層性の設定 (STEP1)
- 3 県の視点に基づく必要性の検証 (STEP2)
- 4 市町の視点に基づく必要性の検証 (STEP3)
- 5 都市計画道路網の検証

#### 4-1 現況交通量配分の実施

現況交通量配分については、平成 30 年度に実施した「都市計画道路網将来交通量推計業務」で作成したネットワーク、ゾーニングを参考に以下の手順で実施した。



#### ア 配分対象ネットワーク及びゾーンの設定

現況道路ネットワークは、平成 30 年度業務における配分対象ネットワークを基本に、道路ネットワークを設定した。

配分対象OD表を作成するためのゾーニングおよび発生ノードの設定は、平成 30 年度業務のゾーニング及び発生ノードを基本とし、施設や企業の立地状況に応じてゾーン再分割および発生ノードの修正を行った。

#### イ 配分対象 OD 表の作成

平成 30 年度業務の OD 表を 4-1 アで設定したゾーンに対応するよう、配分対象現況 OD 表を作成した。

#### ウ 現況交通量配分の実施

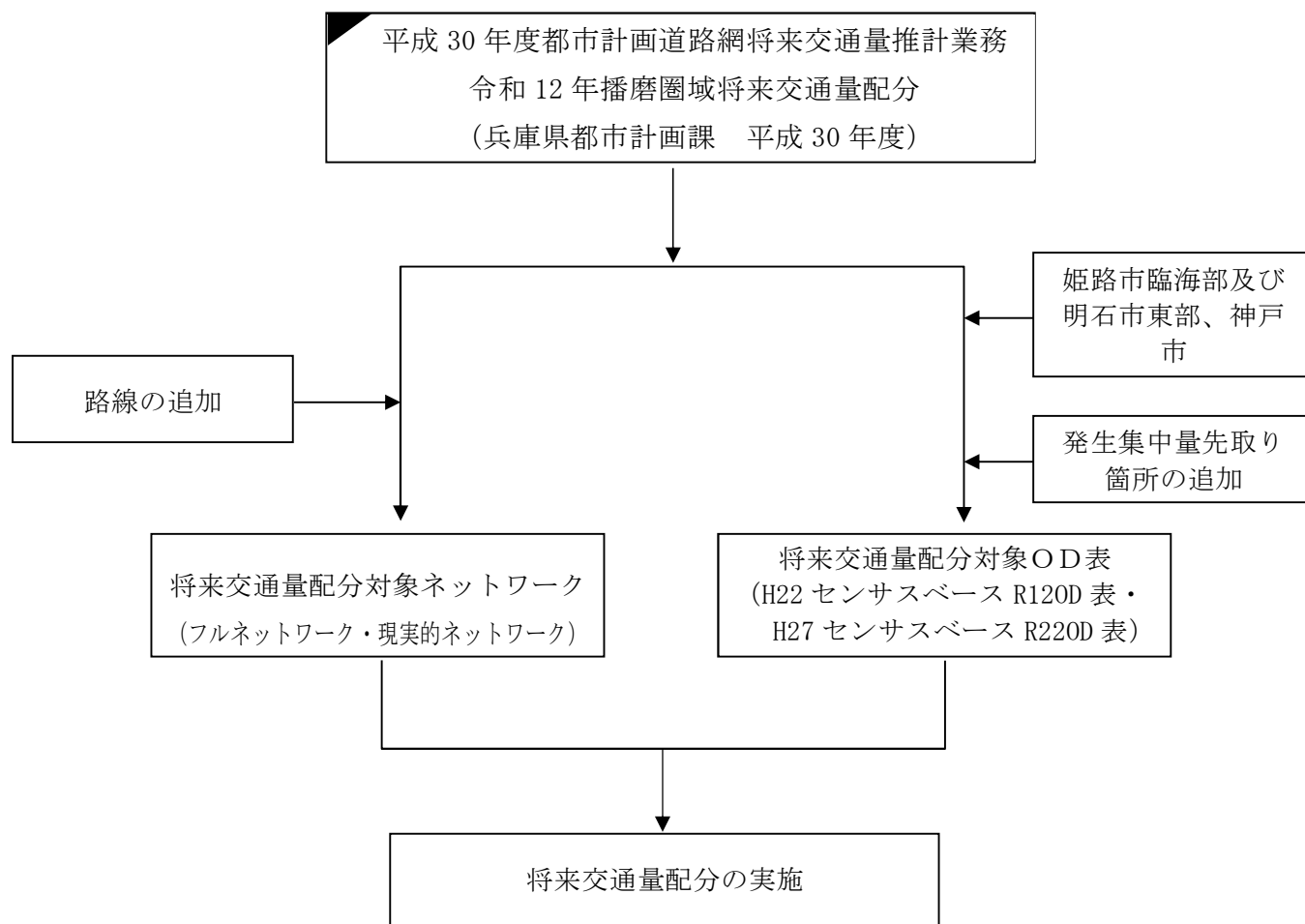
4-1 アの配分対象ネットワークに、4-1 イの OD 交通量を配分し、現況交通量を推計した。なお、配分手法は QV 条件式による転換率実用配分とし、QV 条件等は平成 30 年度業務を参考に決定した。

また、現況交通量の推計値と平成 27 年道路交通センサス観測値等を比較し、配分手法の妥当性を確認した。

## 4-2 将来交通量配分の実施

将来交通量配分については、以下に示す手順で実施した。

### <将来交通量配分の実施フロー>



#### ア 配分対象ネットワーク及びゾーンの設定

本業務で実施した現況ネットワークを基本とし、平成 30 年度からの諸計画の変更を踏まえ、追加・削除を行った。

#### イ 配分対象 OD 表の作成

平成 30 年度業務の OD 表を 4-1 アで設定したゾーンに対応するよう、配分対象現況 OD 表を作成した。

#### ウ 将来交通量配分の実施

4-2 アの配分対象ネットワークに、4-2 イの OD 交通量を配分し、将来交通量を推計した。なお、配分手法は QV 条件式による転換率実用配分とした。



#### 4-3 都市計画道路網の検討

4-2 で推計した将来交通量を用いて、『都市計画道路網見直しガイドライン（兵庫県 平成 23 年 3 月）』を参考に、各都市計画道路の存続および変更・追加・廃止の検討を行った。

また、都市計画道路網の検証として、検討結果を踏まえ、配分対象ネットワークを修正し、将来交通量配分を実施した。各路線の交通量及び混雑度を確認し、交通処理機能の観点等から、都市計画道路網の妥当性を検証した。